

ねん がつ  
おお なかま いま か みらい そうぞう  
多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために 2015年3月

# KSKQ ファースト・ラン NO. 93



『花』  
はな  
菊池  
きくち  
沙耶香氏  
さやかし

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価百円

スタッフリレーコラム～こんなメンバーであんじょうやっています～

### 『仲春に想う』

もう3月ですね。ついこの前、紅白歌合戦を観て、神社に初詣に訪れ、お節料理を頂いたと思っていたのに、1年の4分の1が過ぎようとしているとは・・・。年齢とともに月日の過ぎるスピードが増々加速しているように思いますが、皆さんはいかがでしょう。

ある説によると、子供の頃は新しい経験を日々し、それが新鮮な刺激となり1日長いと感じるのに対し、年を重ねるにつれそれが減り、同じ事の繰り返しで1年を早く感じさせているそうです。新鮮な気持ちで過ごさないと早く歳をとるという訳でしょう。しかし考え方を換えれば、それは同じ事の繰り返しを楽しむという余裕を与えてくれています。慌てず焦らず、同じ事を楽しみながら、新しい事にもチャレンジするというバランスの取れた生活をおくれるようにと心掛けています。

皆さんも何か一つでも夢中になって新しい事に「挑戦」してみませんか。

かしはら まなぶ  
(榎原 学)

# 「ここはヘンタイばかりや、そんでやさしい人ばかりやな」

## ～地域交流センターさんかくひろば活動報告～

表題は遊びに来ていた地域の小学 4 年生が言った一言です。

「地域交流センターさんかくひろば」は 2012 年 8 月の開所以来、3 年目に入りました。開所前にファースト・ランに書いたことが実現できているか現在の様子をご報告したいと思います。開所時は読者の皆さんにたくさんの寄付をいただきました



したことに改めてお礼を申し上げます。単にお金のことだけではなく、私たちがやろうとしていることを応援してもらえたことがとても嬉しく勇気ができました。

「障害あるなしに関わらず様々な人が学校や家庭とは違う人間関係を結べる場」を目指してきました。地域の自治会にイベント案内を毎月回覧板でお知らせし、餅つき大会を地域の餅つき名人に手伝ってもらい、毎年秋祭りにたこ焼きを出店し、地域の人に認知されてきました。校区の小学校にお願いし、全校生徒に毎月イベントプログラムを配布し、地域の子どもが自由に参加できるようにしています。

常連の家族連れや地域の子ども、さんかくひろば卒業生、たこ焼きを買いに来るおばあちゃん、ボランティアさんなど毎日誰かしら来てとても賑やかです。目的を達成するために、スタッフみんなで議論を重ね、実践してきました。ここまでくるのには時間がかかりましたが、少しずつ目指す形になってきたと感じます。先日、小学生たちがさんかく利用者 A さん

(高校生です。)と遊びに来ていました。ちょうど A さんが電動車いすデビューをした日、練習のために買い物に行くことになり「私も行く」と 3 人の小学生たちがついてきました。

A さんに「こっちやで」「ここ曲がれる？」と言いながら賑やかに歩きました。学校の体験学習で車いす体験などがありますが、こんな風と一緒に過ごすほうが何倍もいいなと思います。市民交流スペースとして設けたたこ焼きブースは、2 年目にお客の少なさに「地域交流に役立っているのか」という意見も出、止めようと思いましたが、スタッフ、ボランティアさんと議論の末継続することになりました。今は結構売れる日もありますし、ボランティアさん

の力で運営できています。たこ焼きボランティアさんが集まるのは不思議ですが、子どもサポートよりたこ焼きなら入りやすいなどの理由でしょうか？かといってたこ焼きボランティアさんが子どもたちに関わらないわけではなく、暇なときはたこ焼きブースの外に出て子どもたちと遊び、全体のことをよく見てくれています。お店なので外から来たお客さんが「ここはどういうところですか？」とボランティアさんに聞きますが、スタッフを呼びに来る人はおらず、みなさん自分なりに説明しています。内容も的確で、よくわかってきているなあうれしくなります。

もう一つやりたかったことは「子どもたちが主体的に役割を担うこと」です。箕面市の NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝で発行している地域通貨「まーぶ」を導入し、子どもたちがさんかく内で販売する駄菓子の値付けをしたときに渡しており、人気のある作業となっています。一般の店舗でも使用できるので稼いだ「まーぶ」を使って地域で買い物もできます。毎年 3 月に行う卒業生を送り出す卒業パーティーでは、何度も子どもたちが会議を重ね、卒業生を中心に子どもたちが役割を担い実施する 1 年の中でも最も盛り上がるメインイベントです。また、劇団「でこじるしー」をスタッフ、デイ利用の子ども、卒業生、

↓「でこじるしーのひとコマ」



ボランティアで結成し、公演は 4 回目となりました。公演前には毎晩練習がありますが、みんなとても真面目に取り組めます。好きなことに対する集中力がすごいです。子どもたちが主体的に取り組むことは発展途上であり、今後とも色々と試していきたいと思ひます。

様々な活動が生まれ、人とのつながりが生まれてきたのはスタッフみんなで自由な雰囲気大切にしてく

たからだと思ひます。2015 年度は今のこの形をキープしつつ、さらに

多くの人と出会い、活動の拡大と充実を目指します。

一方で、子どもたちへの関わりが深まるほど、親が生きている間は地域で暮らせても、親亡き後に地域で生活していける環境が乏しいことにますます危機感を覚えます。さんかくひろばの卒業生がこのまちでずっと暮らしていけるよう時間はかかっても保護者と信頼関係を構築しながら自立に向けて取り組んでいきたいです。(細谷 明代)

↓「でこじるしーのひとコマ」



# こんにちは！

# ライフタイムミントです



相談支援事業 ライフタイムミントは、法人第3事務所として、昨年3月にさんかくひろばに隣接する「グリーンみのお1階」に移転いたしました。

主な業務は、日常生活の中でのさまざまなお困りごとの相談と、サービス等利用計画の作成と継続支援(計画相談業務)です。

障害者総合支援法の施行とともに、障害福祉サービスを利用されるすべての方を対象として、サービス等

利用計画作成が義務付けられ、現在100名あまりの方にご利用いただいております。相談支援専門員は、日常生活を様々な角度から眺め、皆さんの課題やニーズを見つけながら、自分らしい生活を築いていくために、どんな社会資源が利用できるかを皆さんと一緒に考えていきます。その際に、制度や政策を熟知していなければ、適切なサービス利用を検討したり、その説明を行ったりすることができませんので、3人の職員は日々新しい情報を取り入れるよう自己研鑽に励んでいます。

ライフタイムミントでは、その他にもアートサークル・ミントアンサンプルの運営、当事者サークル「サークルわてら」の支援などを行っています。

サークルわてらは、障害の有無にかかわらず、みんなで楽しいことをしよう！というコンセプトで、年に数回、ボウリングやカラオケ大会、クリスマス会、日帰り旅行などのイベントを企画しています。昨年支援学校を卒業したばかりのメンバーも増え、若い会長が就任してサークル内もリフレッシュしています。

また、アートサークル・ミントアンサンプルは活動を始めて6年目を迎えます。今年も大阪府主催の『現代アートの世界に輝く新星』発掘プロジェクトで、3名の会員が入賞を果たしました。それらの作品も含め、今年も4月14日(火)～19日(日)まで、メイプルホール1階ロビーにて、「第4回ミントアンサンプル展」を開催いたします。一段と輝きを増した作品の数々を、多くの方々にご鑑賞いただけることを願ってやみません。(池間 圭子)

## カエルのうた

其の 8 ～どうすればいいですか



車いす生活になってから、いろんな人がいろんなサポートをしてくれるようになった。しかし、障害者になって 10 年程度の私は、まだまだサポートされることに慣れていない。だからどのように手伝ってもらったらいいかわからないことが多い。手伝ってくれようとする人がいると、なんとなく緊張してしまう。例えば散髪屋さんに行って、車いすから専用の座席に乗り移ろうとすると「どうすればいいですか」と聞かれる。私もこういう風にして下さいと言えればいいが、大きなお店で行くたびに座席の位置が違うので、自分でもどうしたらいいかわからない。わからないから答えようがない。「自分でもどうすればいいかわかりません」と言えればいいのに、すぐには言葉にならない。なんとなく口ごもってしまうので、相手の人には無視しているように思われるかも知れない。それに腕を持たれたりすると左の腕はかなり痛いときがある。腕を持たれて「痛い！」なんて叫んでしまったら、相手には思いっきり引かれてしまう。そういうこともあって「手伝いましょう」なんて声をかけられると「あっ、大丈夫です」なんて言ってしまう。言ってしまうから「手伝ってもらえば良かった」なんて後悔する。

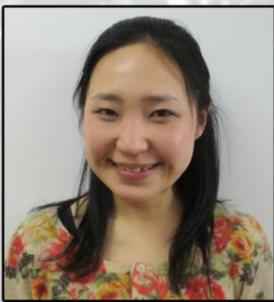
こないだタクシーに乗ろうとする時もそうだった。車いすから乗り移ろうとしている時に「手伝いましょう」と通りがかりの人に声をかけられた。その時も「大丈夫です」と断ってしまった。そんな風に断ったら、その人は他で手助けがあった方がいい人に出会っても手伝おうとしなくなるかも知れない。考えすぎかな？ 障害を持ってから変なことばかり考えるようになった。何でもかんでも障害を持ったせいにしてしまうから時々反省もする。

障害を持ってから良くなったと思う所もある。今思うと障害を持つ前はやたらと理屈っぽく、トゲトゲしていた。それが今では誰に対しても丁寧な物言いで接するようになった。その理由をいろいろ考えたが結局は分からず仕舞いだ。しかし、間違いなく人当たりは良くなったと思う。それによほどの事がない限り怒る事がなくなった。て言うか、腹が立つと普段以上に考えている事がまとまらなくなって、訳がわからなくなってしまふ。すると何に対して怒っているのかすら忘れてしまふ。へんな話だが何に対して怒っているのかは忘れていたのに、怒りの感情だけが残ってただ怒っている。この事は自分にとってはかなり深刻な問題なので、今までいろんな所で書いている。身体的な障害は多少慣れたように思うが、記憶力に関する障害に慣れるのはまだまだかなりの時間がかかりそうな気がする。自分の話した事を覚えていないから、初めて話した事のように何度も話してしまう。聞いている人にとっては迷惑な話だ。まっ、しかしみなさんこんな奴だと諦めて聞いてやってくださいな。(武藤 芳和)

# ヘルパー募集!

人とつながる・支え合う・自分だけのやりがいを見つけてみませんか?

当法人では、箕面市在住の障害のある方の生活をサポートして下さるヘルパーさんを募集しています。週1日からでも自分のライフスタイルに合わせた勤務が可能です。



森山千代さん

『ヘルパーのやりがい』

車椅子生活をしている方が親元を離れて地域で一人暮らしをしたいという夢を応援したく、ヘルパーのお仕事を始めました。その姿を見て、自立に向けて一步前に踏み出し新たに一人暮らしを始めた方もいます。ヘルパーって夢のお手伝い出来る仕事なのだと思うと嬉しくなりました。自分の体調管理もしっかりやりつつ、障害のある方の生活が心地良く流れるようにこれからもサポートしていきたいと思えます。



木下泰彰さん

ヘルパーになってかれこれ3年になります。まったく未経験で始めは不安でしたが、優しい先輩達に丁寧に教えて頂き何とか3年続いています。今は泊まり勤務にも慣れ、個性豊かな利用者さんとも楽しくやっています。少し余裕もできたので先月スマホも買っちゃいました。ヘルパーの仕事に興味がある方も、特になくても仕事をお探しの方も、辛いときもあります。是非楽しい仲間と一緒に働いてみませんか? 思わぬ発見があるかも!



## 【仕事内容】

皆さんと同じようにお茶をしたり、出かけたり、お風呂に入ったり、ご飯をつくり、食べたり、そんな何気ない日常生活を送るためのサポートです。

1対1で活動するこの仕事は決して楽なことばかりではありませんが、魅力もたくさん。

いろいろな人と知り合える出会いの多さや、問題に直面してもひとりで悩むのではなく、みんなで悩み、考えて解決していくプロセスはこの仕事を持つ「面白さ」です。

## 【勤務地】

箕面市内の障害のある方のご自宅

事務所に立ち寄らず直接訪問、終了後は直接帰宅となります。

困ったことなどがあれば、いつでもスタッフに連絡相談できます。

## 【勤務時間】

週1日～OK！早朝7時～9時、夕方16時～22時、18時～翌朝の宿泊を伴うサポート等々。

1か月単位でスケジュールを組んでいきます。他のお仕事との掛け持ちOKです。

登録してすぐにたくさんの仕事をして頂けるわけではありません。

時間をかけて利用者との関係を作り、徐々に入れる仕事を増やしていきます。

## 【給与】

時間給 1,300円～ ＊サポート内容、勤務時間などにより異なります。

諸手当・・・通勤手当、移動手当、休業手当、研修手当、盆・年末年始手当など

労働災害保険加入、賠償保険も完備しています。

## 【資格】

ヘルパー2級以上

(各種ガイド資格保持者・同行援護・重度訪問介護など)

＊資格取得支援制度あります。

無資格でも興味のある方は是非ご相談下さい。

## 【連絡先】

〒562-0001

大阪府箕面市箕面4丁目8番30号

特定非営利活動法人

箕面市障害者の生活と労働推進協議会

TEL 072-723-3342

FAX 072-723-6506

担当：安東、丸橋



